

公民館 ふっさ

令和4年11月1日

No.167 目次

- ① 公民館運営審議会
より良い公民館活動を目指して
～市民と公民館の架け橋～
- ②③ 公民館ふっさ 誌面講座
多文化共生社会を目指す公民館学習
～世界と地域をつなぐ私たちのボラン
ティア活動～
公民館講座のお知らせ
- ④ 公民館夏の平和事業の報告
サークル会員募集

編集
発行

■ 福生市公民館 〒197-0011 福生市福生2455 ※市民会館併設
 ■ 公民館事務所 〒197-0024 福生市牛浜163 さくら会館内
 ■ 公民館松林分館 〒197-0013 福生市武蔵野台1丁目15-1
 ■ 公民館白梅分館 〒197-0003 福生市熊川559-1

☎ 042-552-2118 FAX 042-552-2228
 ☎ 042-552-3624 FAX 042-530-2512
 ☎ 042-553-3454 FAX 042-530-2513



公民館ページ
QRコード

公民館運営審議会

より良い公民館活動を目指して ～市民と公民館の架け橋～



公民館運営審議会定例会の様子

福生市公民館運営審議会（以下、公運審）は、社会教育法等に基づいて設置されており、各団体からの推薦並びに公募によって選出された10名の委員で組織されています。

月1回の定例会において、公民館事業の審議を行っています。

また、他市町村の社会教育施設等への視察や、東京都公民館連絡協議会等で行われる研修等への参加を通して、公運審の活動や公民館が抱える課題についての見識を深めています。

さらには、公民館利用者や公民館を利用したことがない市民に対して、公民館の現状や公運審の

活動を知っていただくことを目的に、委員が企画・編集を行い、『公運審だより』の発行を行っています。『公運審だより』は、平成元年(1989年)1月に第1号が発行されて以降、歴代の公運審委員により30年以上にわたって発行され続けています。公民館各館で閲覧できますので、ぜひご覧ください。

令和4年7月、「人生100年時代における公民館の役割について」を諮問し、令和5年2月の答申に向け審議を進めていただいています。

公民館運営審議会委員10人の任期満了(令和5年3月31日)に伴い、市民公募委員を募集します。

公民館運営審議会委員
(市民公募委員)
を募集します

- 【活動内容】定例会月1回。視察研修、関東甲信越静公民館研究大会や東京都公民館連絡協議会が主催する大会・研修会等への参加、自主活動等
- 【任期】令和5年4月から2年間
- 【報酬等】市の規定による
- 【応募資格】市内在住の18歳以上の方(令和5年4月1日時点)。ただし、市が公募した他の委員との兼務はできません。
- 【募集人員】2人
- 【応募方法】「公民館に期待すること」と題した800字以内の作文に、住所、氏名、生年月日、職業、電話番号を記載したものを添えて、12月1日(木)(必着)までに郵送(〒197-0024 福生市牛浜163番地さくら会館内公民館公民館係宛)、または公民館公民館係(さくら会館内)に直接持参してください。
- ※提出した書類は返却しません。

多文化共生社会を目指す公民館学習 ～世界と地域をつなぐ私たちのボランティア活動～



講師 秋山浩子氏 (ゆうあいふっさ)
秋山浩子さんは、居住外国人の割合が高い福生市で地域社会を共に創っていくために、公民館サークル「ゆうあいふっさ」で地域密着型のボランティア活動を継続して行ってきました。隣人になった外国人の方と共に、心豊かな日常生活が送れることを願って活動を続けてきた秋山さんに、その活動についてお話を伺いました。

講師プロフィール 公民館サークル「ゆうあいふっさ」代表。令和2年の福生市制50周年において市制の発展に貢献した団体として記念表彰を受賞。個人としては福生市地域福祉推進委員を歴任

◆はじめに

「ゆうあいふっさ」の始まりは、昭和63年(1988年)、私たちのボランティアの大先輩で今は亡き高橋登志江さんが、日本人男性と国際結婚をした東南アジアの女性のためにボランティアで自宅を開放し、生活や悩み事の相談を受けてサポートされていたことに端を発しています。

高橋さんは彼女たちと接しているうちに、日本語の未習得や理解不足が様々な問題の根源にあることに気がきました。家を訪れる人が増え、当然のことながら個人の力の限界を感じるようになりました。

そこで福生市の公民館に相談したところ、快く「日本語教室」の開設に力を貸してください、部屋も無料で提供していただけることになりました。また、市の広報でもボランティアを募っていたいただき「サンパギータ(フィリピンの国花)」の名称で、週1回「日本語教室」を開くことができるようになりました。

その後、市民の方の関心が高まり、市の国際親善の拠点となるべく、名称も「ゆうあいふっさ」に改められました。またこの頃、外国の方のゴミの出し方のクレームが多くあったことから、「市の便利帳」を有志で分担して英訳したこともありました。

そして、「ゆうあいふっさ」の活動は「日本語教室」が主流となり、日常生活に必要な日本語はもろろん

と、日本の文化、習慣など、実践できることは一緒にやって体当たりで取り組み、地域の皆さんと安定した日々を送れることを願い、途切れることなく教室を開いてきました。しかし、ここ数年はコロナ禍に見舞われ、小グループかつ対面授業形態をとっていること、またボランティアの高齢化もあり、現在は教室を閉じています。

そのような中、公民館からこのような誌面講座の機会をいただき、30年余を振り返ってみることにしました。

あんなこともあった、こんなこともあったと、その時々々の場面や皆さんの顔が想い浮かびます。そして、時代の変化に対応しながら、試行錯誤を重ね続けてこられたことに感慨を覚えます。

◆にぎやかな教室

当時、三多摩地域には日本語を学べる所は少なく、近隣の市や町から日本人と国際結婚をした多くの女性に通ってきました。赤ちゃんを連れてた女性や出産を控えた女性で教室は超満員でした。私たちも一人で何人も生徒を受け持つことになりました。数ヶ月に一度、パーティーや料理教室などを楽しみながらお互いの国の食文化や習慣を話題に交流を深め、日本での生活の苦労や疑問に感じたことをまとめ、公民館のつどい

◆社会ボランティア賞



社会ボランティア賞表彰式の様子

令和3年(2021年)11月2日、「ゆうあいふっさ」は、公益財団法人ソロプチミスト日本財団より、地域社会のニーズに適合した地域密着型のボランティア活動を継続的に行い、誠実に責任を果たしたとして、社会ボランティア賞を受賞しました。

御推薦をいただいた国際ソロプチミストあきる野、福生市社会福祉協議会に対し、大変名誉ある賞をいただいたことに深く感謝を申し上げます。

当日は、国際ソロプチミストあきる野の小林様と京都で行われた表彰式に出席させていただき、夢のような幸せな時間を過ごすことができました。これからも「ゆうあいふっさ」のよ

の分科会で発表した年もありました。また、福生七夕まつりでは、旧市役所庁舎の前庭(駐車場)でフィリピン、インドネシア、タイ、韓国などの料理を作って販売したり、アトラクションとして民族舞踊を披露したりと市民の皆さんからも喜ばれました。

平成2年(1990年)、外国人労働者の受け入れ拡大などで、ブラジルやペルーから家族で就労のために来日する人が増えてきました。夜勤明けの疲れた体で教室へ通ってくる熱心な姿に、私たちも力が入りました。子どもの保育園や学校からのお便り、電気料金や健康保険のこと、毎週身近なところにたくさん疑問や質問がありました。仕事との両立は体力的にも大変で、毎週教室へ来ることができない厳しい状況でした。私たちボランティアは、個別にサポートをすることも多くありました。

◆外国籍の子どものために

両親と一緒に来日した子どもたちが日本語を学べないまま、学校の授業についていけないという問題が起きました。学校もどうしたらよいか大変悩んでいました。子どもたちの高校進学率は低く、成長に応じた日本語能力を身に付けることが重要だと実感しました。

公民館講座のお知らせ

公民館では、多文化共生に関する事業を実施しています。興味・関心のある方はぜひご参加ください！

国際交流講座 「日本語でできる、自分も輝く国際交流」

英語を使わないで、地元で、日本語で気軽に、そして誰でもできる国際交流。しかも、それが自分を輝かせてくれたら素晴らしいと思いませんか。自分自身が求められて、役立てて、充実できる。そんな国際交流の仕方のヒントをお話しします。毎日を世界とつながった、もっと輝いて楽しい前向きなものにしていきましょう。

【日時】11月27日(日)午後2時から4時

【場所】さくら会館ホール

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着30人

【講師】高橋邦彦氏(オンライン日本語教師・前福生市公民館長)

【申込み】11月5日(土)から、午前9時から午後5時までの間に、直接または電話で公民館公民館係(☎042-552-2118)へ

サマースクールを開くことにし、福生第一中学校のボランティア部の先生と生徒の皆さんに御協力いただき試みることにしました。子どもたちは中学生のお兄さんお姉さんから勉強を教えてもらえることに心がはずみ、その光景はほほえましく映りました。しかし、現実には難しく、文章を理解することが難しい国語の問題、算数・数学の応用問題も頭を抱え解くことができず、夏休みの宿題を終わらせるのが精一杯で、短期間では到底満足いくものではありませんでした。子どもたちには母国語も忘れず大切にしてほしいのと、小中学生での日本語の習得に一層努力をしてほしいと強く思いました。

そして、夏休みの終わり、参加した子どもたちと一緒に、1年目は檜原村の都民の森へ、2年目はガスの科学館と葛西臨海水族園へ、庁用バスで出掛けたことも楽しい思い出です。

また、同じ頃、スペイン語の話せるボランティアに授業の補助要請があり、応じることにしましたが、学校、生徒、保護者、そしてボランティアの思いが一つにならないと、せっかくのチャンスも残念な結果になることも知りませんでした。

◆最も近い国から

平成12年(2000年)、中国、台湾、韓国と日本に最も近い国から就労、就学、結婚のための来日者が増

公民館 夏の平和事業の報告

■公民館本館

公民館平和事業

「難民支援から見つめる平和への道」

実施日：7月30日(土)

講師：認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan)

難民を取り巻く問題や支援についてお話を伺い、様々な支援が、どのように人々の平和な生活につながっていくのかを考えました。

◆参加者の声

○外国人の多くなった福生市のサポート体制等の現状を、公民館の講座等で知らせていただきたいと思います。

平和講演

東京大空襲と『ぼくと戦争の物語』 動画上映会

実施日：8月6日(土)

今年4月に逝去された漆原智良氏による動画上映会が開催され、漆原氏の平和への切なる思い、命の大切さを訴える姿に、戦争の悲惨さ、平和の尊さを身をもつて考える機会となりました。

◆参加者の声

○漆原先生が亡くなられて、講座を取りやめるのではなく、このような上映会という形で先生の意思を伝えるのは素晴らしい企画だと思います。

○戦争の体験や大変さについてのお話を伺って、命の大切さを思い知らされました。

ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間」平和パネル展

実施日：8月3日(水)～14日(日)

協力：ドイツ平和村をサポートする会 広島、長崎に投下された原爆の被害を伝えるパネルを展示し、来場者の方々に平和への想いを書いてもらいました。

世界平和を願います



平和を守るひとりとしてできることを続けよう!!

■松林分館

松林平和講演会

「国際平和に向けて、日本にいる私たちにできること・考えること」

実施日：8月28日(日)

講師：大瀧千輝氏

(内閣府国際平和協力本部事務局 国際平和協力研究員)

本講演会は、二部構成で行いました。前半は講師により、今世界で起きている戦争・紛争・危機について、紛争地域での赴任歴を踏まえた現実味のあるお話を伺いました。

後半は実際に「日本が紛争に巻き込まれた際に、どのような行動をとるべきなのか」についてシミュレーションを行うとともに、参加者同士意見交換を行うグループワークを行いました。

■白梅分館

白梅おはなし会

〜平和ってなんだろう〜

実施日：8月16日(火)

講師：おはなしボランティアポケット ☆ポケット、福生市立中央図書館 職員

『けんかともだち』『へいわってどんなこと?』など4冊の絵本の読み聞かせを行いました。

その後、友達とのけんかから実際に世界が経験した戦争まで、皆さんで平和について一緒に考えました。

最後は、読み聞かせをした絵本以外にも平和について考えるおすすめの絵本の紹介を行いました。

◆参加者の声

○いろいろな国で戦争が起きていることが不思議に思えました。

サークル会員募集

◆福生ハーモニカ同好会

3本の複音ハーモニカで練習しています。初心者も参加していますので、何時でも参加できます。

【活動日】毎月第2・3土曜日 午前9時から正午まで
【場所】本館音楽室
【会費】月500円
【連絡先】山本

☎042-551-8650

◆フォトサークル福生探検隊

公民館講座の参加者有志で結成し、今年で8年目に突入。月例会での情報交換や講評・添削の他、撮影会や近隣写真展の鑑賞も行っています。

【活動日】毎月第3土曜日 午後5時30分から
【場所】本館
【会費】月1,000円
【連絡先】落合

☎090-3591-0900

◆弘梅会

俳句、和歌、短歌を題材にしてかな文字を書く書道サークルです。気軽に見学にいらしてください。

【活動日】毎月第1・3水曜日 午前10時から正午まで
【場所】白梅分館
【会費】月2,000円
【連絡先】野中

☎042-553-3936